不定期刊行　　第435号　2011.12.31

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
池田工業高等学校

ヤズィックアグルの蒼い空 27　トルファン観光　2

その不遇の歴史の最初は、地域一帯がイスラム教へと改宗するという中で起こった。教義上、そこではすべての偶像は破壊された。そして壁画の価値など顧みられることもないままに洞窟は時に羊飼い達の住居としても使われたという。そしてそれをくぐりぬけ生き残った遺跡たちを次に襲ったのは、20世紀初めの探検時代、最後の秘境として注目された中央アジアを訪れたヘディンやスタイン、また日本の大谷探検隊などの調査の名を借りた壁画のはぎ取りであった。そして哀しくも3度目の苦難、最後にそれに追い打ちをかけたのが、文化大革命の嵐。今、我々の目の前にある美しくも無残な壁画たちには、このような歴史があるのである。人間の栄枯盛衰がこの沙漠の地で繰り広げられてきたことに思いを馳せながら、それらの壁画を眺めた。

昼食はトルファン賓館。トルファンといえば蒲萄が有名だが、野菜の産地としても名高いそうで、ここで食べた食事にはこれまでなかった大根やもやし（もちろん地物）が使われており、興味を引いた。昼食後は気温が急上昇し、トルファンらしい気候になった。恐らく気温は40度を超えていたのではないかと思われる。この暑さの中で清時代の遺跡スレイマン塔（蘇公塔）を見学、広いモスクの中だけはひんやりと気持ちがいい。以前来たときには塔の上まで登れたが、今は危険だからとのことで登ることは叶わない。

駆け足で見所をすべて回ると言うことで盛りだくさん、次に訪れたのは交河故城。高昌故城と交河故城、二つの故城のうちでは、僕は後者によりロマンを感ずる。それで、是非にと無理をしてこちらに案内してもらったのだが、さすがにタフなヌルさんもこの暑さ、水分補給すらできないラマダン中の行動故、ギブアップ気味。とにかく暑いのである。気温は40度と書いたが、直射では45度にも近かったはず。そんな「苦行」をしてまで僕らを案内してくれる友情と、信仰への厚い気持ちは驚嘆に値する。さて、その交河故城は、まだレンガを作る技術のない頃の遺跡で、すべての建物は縦穴式住居である。南北3km、東西1.5km、城（街）を建設した舟型の台地の東西を取り囲むようにクリークを引き、城を外敵から守るようになっている。遠くから見るとまさに河に浮かぶ軍艦の趣である。戦禍によって焼かれることがなかったとのことで、古いにもかかわらず高昌故城よりも保存の状態はよい。イスラム以前の仏教遺跡が目の前にある。それにしても日陰のない灼熱の遺跡。あまりに暑いので遺跡を出てからヌルさんには悪いが、アイスクリームと水で喉を潤した。

トルファン観光の締めは、カレーズ。前回来たときにはなかった「カレーズ博物館」が建っていた。天山の雪解け水を地下隧道を掘って、引いてきた人工井戸。これとて人類の残した偉大な遺産である。紀元前から連綿と掘り続けられてきた数百の水路が今なお現役で活躍している上に、現在もこの技術が伝承されていることは驚嘆に値する。地下水の清涼な流れに外の暑さをしばし忘れることができた。

見学を終えたあとヌルさんの知り合いの農家に立ち寄り蒲萄とスイカ、ハミ瓜をご馳走になったが、極めて美味であった。

南山牧場へ行く

今日は8月19日、いよいよ旅も最終盤になった。昨日は往復6時間の一日トルファン観光だったが、見所多く初見の隊員諸氏にとっては旅の良き思い出のできた一日だった。最後の一日をどう過ごすべきか。ウルムチ近郊の観光地として名高いのは天山の山を間近に望める「天池」だが、ここはかなり観光ナイズされており、昔の面影は消えてしまった上に入場料も馬鹿高い。10年前でさえそうだったので、隊員諸氏には悪いが僕自身あまりこちらに行くのは気が進まなかったので、ヌルさんに頼んでもう一つの景勝地で僕がまだ行ったことのない「南山牧場」に連れて行ってもらうことにした。ウルムチから南西に向かう国道216号を30分も走ると、まるで北海道を思わせるような田園地帯が広がる。国道沿いにはポプラの並木が植えられ、広大な畑ではじゃがいもやトウモロコシ、小麦が栽培されている。

さらに道を進み、ウルムチからおよそ70kmほど離れた標高2000mの高原地帯が南山牧場だ。ここにはカザフ族が住み、放牧をしている。これまで全く起伏のない沙漠の大地を見慣れてきたせいか、クモスギという針葉樹が生えた天山の山並みが新鮮に映る。去年、クチャ（庫車）を訪れた時「ここからウルムチへ抜ける道は素晴らしい景観が広がっているので、是非一度お出でください」と言っていたのを思い出して聞いてみると、やはりそうだった。その道が通じている先がここだとのことである。ここから天山を越えていく4000mの高原を横断する道は、山はもちろん、いくつかの氷河や氷河のなせる湖などが素晴らしい景色を繰り広げているのだそうだ。しかしその道も今は荒れていて通行は困難なのだという。山越えの道の維持補修は考える以上に大変なようだ。南山牧場は、かなり広い範囲にわたって点在しておりその中にはいくつもの景勝地があるようだが、今回僕らが訪ねたのは西白楊溝という大きな滝のある地区であった。駐車場から3kmほど上部に滝があるとのことで、そこまでは徒歩で行くこともできるが、電動車または馬を使うこともできる。我々は電動車で移動したが、その行き着いた先には迫力十分、カメラに収まりきらない落差50mほどの大瀑布があった。点在するカザフ族のパオの中を覗くと、ウイグルとはまた違った、馬や羊と暮らす遊牧民の暮らしを垣間見ることができた。

午後はウルムチに帰り、町中をブラブラと歩き回った。スーパーマーケットを覗いたり、国際大バザールをうろつき回ったりしながらお土産さがしをし、完全に観光客になりきった。バザールは一昨年の民族対立の火元となった場所にもほど近いが、今や全くその跡形はなく（去年もそうだったが）、平穏な姿で賑わいをみせていた。

編集子のひとりごと

先日、宮本義彦長山協会長、松田大登山隊長とともに県教委に教育長を訪ね、報告書「ヤズィックアグルの蒼い空」と「長野県山岳協会50周年記念誌」を献呈した。同時に、県内公私立の全107高校に一冊ずつ県教委を通じて配布していただくようにお願いした。（右、信毎12月14日付参照。）各学校図書館においていただき、有効に使っていただければと思う。（大西　記）

未踏峰初登頂報告書

県内の高校に配布へ

中国・新疆（しんきょう）ウイグル自治区の崑崙（クンルン）山脈にある未踏のヤズィックアグル峰（6770㍍）に初登頂した信濃高等学校教職員山岳会員が13日、県教育委員会に登山報告書と県山岳協会創立50周年記念誌を寄贈した＝**写真**。県教委を通じ、県内の公立、私立計107校に一部ずつ配られる。

県庁を訪れた登山隊長の松田大さん(61)＝松本県ケ丘高校教諭＝は「われわれ教師が夢に向かって努力したことを生徒たちに見てもらいたい」と山口利幸教育長に報告書を贈呈。同会員で県山岳協会会長の宮本義彦さん(67)＝長野市＝は、同協会創立50周年記念誌について「山岳県長野の将来を担う高校生に目を通してほしい」と話した。

山口教育長は「いろいろな角度から教材化できると思う。有効活用できるよう学校に配布したい」と話した。

信濃毎日新聞 2011.12.14